

武型

samurai mold

KUNST ARZT では、須崎喜也の個展「武型」を開催します。
須崎喜也は、木版画の立体化を通して、昔の日本文化を探究するアーティストです。木版の彫りそのものをシリコンで型取りする立体化の手法は、凹凸が反転することにより、「表立っていない裏の部分」への関心と符合し、その作品は独特の毒を内包しています。ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



野伏之死面 2021

【展覧会内容】

武士にまつわる風習を自分なりに解釈し、それらを「武型」(たけかた)と称して表現します。

経歴

1987年 愛知県生まれ
2013年 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻版画領域 卒業

個展

2019年「版画立つ」 yuge
2020年「版立体図像展」 KUNST ARZT

グループ展

2019年「オル★テラ」 妙善寺
2020年「OBJECT at VOUE」 VOUE
2020年「PERSPECTIVE SPIRAL」 ギャラリーアートサイト
2021年「ヒョーヒョーテンポ」 yuge
2021年「Public Relations」 kumagusuku SAS

2021年11月2日(火)から7日(日)

12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

武型
samurai mold

アーティスト・ステートメント

私は「木版シリコン摺り」という独自の技法を使った制作をしています。
版木で立体となる展開図を制作し、シリコンで鋳造する要領で作品を制作しています。
作品は「立体となる展開図の木版画」「版木を組み立てた立体」
「版木から型取りしたシリコン製の立体」の3点で1組の作品となります。
昔の日本文化に関心があり、その中でも各文化の「表立っていない裏の部分」に焦点を置き、
それらを自分なりの解釈や、現代に存在するモノと組み合わせせて表現しています。



「野伏之死面」
2021
シリコン、木、和紙、油性インク
300×300×1380mm(立体)
900×35×500mm(平面)



「文身図像」
2020
シリコン、木、和紙、油性インク
870×220×1640mm(立体)
850×35×1800mm(平面)



「一枚岩」
2021
シリコン、木、和紙、油性インク、水性絵具
90×40×60mm



「粹はばき」
2020
シリコン、木、和紙、油性インク
300×125×140mm